

発行：青森市教育委員会事務局文化学習活動推進課  
〒030-0801 青森市新町1丁目3-7  
TEL：017-718-1376 FAX：017-718-1371  
E-mail：bunkagakushu@city.aomori.aomori.jp

## 学校との円滑な連携を進める協働体制（浜田小学校）

浜田小学校は、新型コロナウイルス感染防止対策を取りながら、多くの地域学校協働活動に取り組んでいます。担当して3年目の小野寺知恵子推進員は、学校のニーズの掘り起こしを工夫し、コロナ禍だからこそ必要となる支援策を意欲的に進めています。今回は、浜田小学校を訪問し、柴田校長先生、相馬教頭先生と小野寺推進員からお聴きした協働活動への思いや、今年度の取組みの様子をお伝えします。



### 今年度の協働活動

4月には、1年生の給食指導の支援を3日間実施し、また、低学年の交通安全サポート支援を実施しました。（写真左）

新型コロナウイルス感染防止のため活動を9月まで自粛していましたが、10月の運動会では、各学年にボランティアが入り、学級ごとの受付で確認と消毒を行いました。

（写真右）11月には、スケート教室の引率支援や、スケート靴の着脱を手伝いました。次年度の年間行事計画を3月末には教頭先生から入手して、支援を必要とする行事を学校と相談することで、円滑な協働活動が進められています。



### 浜田小学校 柴田一宏校長先生

私は、子どもたちの学習は学校内で完結するものではなく、家庭・地域・中学校も含めた広く学区全体が学びの場だと考えています。地域学校協働活動は、それらを繋ぐ重要な存在です。本校では、小野寺推進員が保護者を中心としたボランティアのネットワークを築いており、今年度も学校と連携して新型コロナウイルス感染防止に配慮しながら、多くの活動を実施することができました。子どもたちの笑顔、ボランティアの皆さんの笑顔を見る度に、学校が多くの人たちに支えられていることを実感しています。私も教頭も、できる限り活動している場面に顔を出し、ボランティアの皆さんに感謝の気持ちを伝えています。（左から柴田校長先生 小野寺推進員 相馬教頭先生）



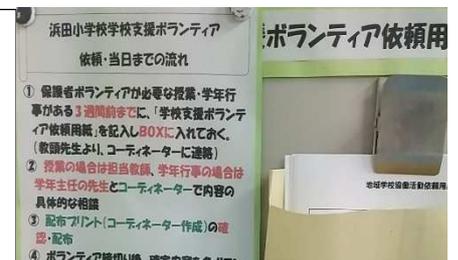
### 浜田小学校 小野寺知恵子推進員

子どもたちが楽しく安全に学習に取り組めるよう、先生方が授業に集中できるような支援が理想です。年ごとに先生方の要望が変わるので、毎年各学年から出されるニーズをしっかりと受け止め、担当の先生と具体的な支援活動の内容を共通理解するよう配慮しています。打ち合わせは休み時間などの短い空き時間を見つけて行っています。できるだけ先生方の要望に応え、信頼関係を作るよう心がけています。

浜田小学校は児童数も多く、たくさんの保護者の皆さんがボランティアに積極的に参加いただいています。今後は地域の皆さんにもボランティアへの参加を呼びかけて、より広いネットワークのなかで地域学校協働活動が進められるようにしていきたいと考えています。

### 職員室に学校支援依頼ポストを設置

浜田小学校では、効果的に学校支援を進めていくために、職員室にボランティア依頼用紙を常備しています。先生方が記入・提出すると、教頭先生が内容を確認し、どこまで支援が必要かを小野寺推進員に連絡します。依頼用紙には具体的な日時や内容が記されているので、推進員はすぐ打ち合わせをして準備を整えることができます。浜田小学校の学校支援活動が円滑に進められているのは、この仕組みが機能しているからです。



## 第2回地域学校協働活動推進員研修会を開催

青森市では、今年度新たに4中学校区にコミュニティスクール(CS)が導入されました。令和元年度に導入された4中学校区と併せて、現在8中学校区がCSとしての活動を進めています。また、それ以外の11中学校区では、地域学校協働本部において、学校ごとの活動に加え、中学校区として協力・連携した活動が計画・実施されています。

今回の研修会では、CS導入校区、未導入校区でそれぞれ意欲的に活動されているお二人の推進員に、今までの活動を中心に事例発表をお願いしました。



第2回研修会は11月22日(月)に開催し、19名の推進員に参加いただきました。まず文化学習活動推進課から、学校運営協議会と地域学校協働本部との関係について説明があり、その後、長くキャリアを積まれたお二人の推進員より事例発表をいただきました。地域と学校を繋いで、地域の皆さんの思いを生かし、子どもたちのための活動をどのように進めていくかについて、多くの参考になる事例が発表されました。



### 相手を思いやり 自分も大切に (浪打小学校 佐藤えり推進員の発表)

- ・学校との関わり→コミュニケーションをとり、信頼関係を作る。
- ・地域との関わり→地域の懇談会や総会でボランティア活動の内容を伝える。
- ・当日の活動で戸惑わないように、ボランティアの方の立場になって伝える。
- ・ボランティアの方への活動場面での感謝の声掛けを大切にしている。
- ・中学校区での取組み→3校と地域と一緒に出来ることを生かして、急がず無理なく。

### ありがとうを支えに (北中学校区 吉田秀子推進員の発表)

- ・学校との関わり→自分を知ってもらい、本音が言える関係づくり。
- ・地域、ボランティアの方との関わり→参加者の気持ちを受け止める。
- ・校長先生、教頭先生からの労いや感謝の言葉。学校だよりでの広報。
- ・CSの委員として→「誰が、何を、どうするか」を明確に!
- ・町会や地域団体と連携して見守り隊の募集や部活動のクラブ化を推進。



### 研修参加者のアンケートの結果の一部を紹介

- ・キャリアの長い方の発表、大変参考になりました。
- ・各校の具体的な活動を紹介していただき、イメージしやすかったです。
- ・各校の推進員の日常が分かりました。コミュニティ・スクールについて考えるきっかけになりました。
- ・佐藤さんと吉田さんの発表が素晴らしかった。
- ・CS導入校ではどのような活動をしているのか、北中学校区さんのお話が聞いて良かったです。
- ・事例がとても良かった。グループ協議で中学校の推進員の方と話をしたかった。
- ・活動を始めて1年目の私はまだまだ学校(教頭先生)に頼り切りになっている現状でしたが、取組みのきっかけが見えたような気がします。

アンケートで研修会の満足度についてもご記入いただきましたが、平均4.6点(5点満点)という高い評価をいただきました。加えて上記の通り、意欲的な感想も多くいただくことができました。第3回研修会は、今回のアンケート結果を踏まえて、特にグループ協議、情報交換の時間を十分に確保するなど、さらに有意義な内容にしていきたいと思います。多くの推進員の皆様の参加をお待ちしています。